

## 議 事 録

第 5 回	
日 時	2016年3月11日(金) 15:00~18:00
場 所	埼玉県行田県土整備事務所 大会議室
議 事 名	第 5 回 星川環境保全検討委員会
	<p style="text-align: center;">出席者</p> <p>学識委員 一般財団法人自然研究環境センター 上級研究員 渡辺綱男          京都大学大学院地球環境学堂 准教授 深町加津枝          埼玉県生態系保護協会 事務局長 堂本泰章</p> <p>一般委員 星川の自然とキタミソウを守る会 会長 栗原二郎          みどりのぎょうだネットワーク 保護部会長 島田勉          行田ナチュラリストネットワーク 代表 橋本恭一          行田市民大学 理事長 今村武蔵          行田市郷土博物館協議会 会長 永沼規美雄          行田市馬見塚橋自治会長 江袋秀行</p> <p>行政 行田市建設部道路治水課 加藤修</p> <p>事務局 埼玉県行田県土整備事務所 河川公園担当          埼玉県河川砂防課</p> <p style="text-align: center;">次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">. 前回のふりかえり</p> <p style="padding-left: 20px;">. 議題</p> <p style="padding-left: 40px;">1 . 星川の原風景保全</p> <p style="padding-left: 40px;">2 . 馬見塚橋の保全</p> <p style="padding-left: 40px;">3 . キタミソウのモニタリング調査</p> <p style="padding-left: 40px;">4 . 今後の流れ</p> <p>4 閉会</p>

渡辺委員長	<p>資料</p> <p>資料1 議題(1~4)</p> <p>参考資料1 第3・4回検討委員会ニュースレター</p> <p>参考資料2 前回のふりかえり</p> <p>議事</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より開会のあいさつがあった。</li> </ul> <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺委員長よりあいさつがあった。</li> </ul> <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のふりかえり</li> </ul> <p>【事務局からの説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料2の説明</li> </ul> <p>第4回星川環境保全検討委員会のふりかえりを行った。</p> <p>・議題</p> <p>1. 星川の原風景保全</p> <p>【事務局からの説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より「1. 星川の原風景保全」について説明があった。</li> </ul> <p>【委員からの意見等】</p>
	<p>これまで委員会の中でも説明があったが、もう一度振り返ってもらって表現を整理した形で説明してもらった。この委員会が始まるまでに星川の河川改修が進められてきて、その中でキタミソウに関してはかなり意見交換をしてきたけれども、川沿いの樹林がなくなってしまったとか、川面が見えなくなった、人と川のつながりが分断されてしまった。そういった地元からの声も加味しながら、検討を進めてきました。今説明があったように、地域が大切にしてきた原風景の要素をできるだけ残していけるような河川整備を実現するとともに、まちづくり上の安全を考えていくという提案をして頂いた。上流の方で河川用地を広げて河川整備をしていこうというところでは、地域の人たちがいろんな形で星川の生き物と触れ合えたり、地域活動ができる空間となります。星川の河川敷で多様な生き物に触れて遊べるような、また子供たちが自然と出会えるような空間を可能な範囲で整備していくようなことも考えて、皆さんの意見を</p>

	伺いたいと思います。
島田委員	<p>11月の終わりごろに、草加市民ネイチャーウォーキングの方が行田のキタミソウの現状を見学にきたため、永沼先生に案内と説明をお願いしました。そのあと電話でやり取りをすると、とにかく驚いたそうです。キタミソウが生えている現状が、草加の川と比べて桁違いに多い。よく保護・保全されているということと、キタミソウを守るためのグループ、保護団体をつくったことも驚いていた。そしてそれが県を動かして検討委員会をつくったことも驚いています。最終的には星川の原風景の保護・保全まで進められたということはすごいことだと。良い勉強になったそうです。</p> <p>今年は馬見塚橋付近での調査が30回を超えました。月に少なくとも2回、3回行っていたので30回できたのですけれども、キタミソウの現状は特に良い状態です。今年は暖冬だったので冬を越した株が多く、キタミソウの生育環境に合っていたのではないかと思います。</p>
渡辺委員長	<p>キタミソウは全国で取り上げられて、北海道、埼玉、茨城、それから熊本の江津湖周辺などでしか見られない。江津湖周辺では開発が進みキタミソウの生育環境とどう両立させるかと悩んでいる。星川で良い例をつくっていくということは、他の場所に対しても大きな意味を持っていると思いました。</p> <p>それでは他の委員の方々に意見を頂きたいと思います。今後も皆さまと集まることはあると思いますが、こういう形で集まることは今日が最後になると思います。今後に向けて、小さなことでもご意見を頂ければ今後につながると思います。</p>
今村委員	馬見塚橋の件は要望書のとおりですが、星川橋は計画流量に対し問題はないのですか。
事務局	星川橋も架け替えが必要な状況です。
今村委員	現状では流量が確保できないということでしょうか。その計画はいつ頃になるとかは決まっていますか。
事務局	基本的には馬見塚橋の次になります。
今村委員	今日で本検討会が終わり、これから工事が進んでいくと思いますが計画通りに行かない場合もあると思います。このような会合を随時開催する、中間時点

	<p>で工事状況を見させてもらうとか、問題が起きたら地元の代表者を交えて討議する機会を設けることが必要ではないかと思います。</p>
渡辺委員長	<p>今後も地元の人との話し合いや、内容によっては専門家のアドバイスを受けることが必要になることが出てくると思います。そういったご意見ご要望を取り入れながら進めることが大事だと思います。</p>
事務局	<p>設計段階で知恵をお借りする場面も出てくるかと思うので、こういった検討会というものではないですが、皆さまには協力して頂ければと思います。</p>
深町委員	<p>まだはっきりしない部分が多いと思いますが、来年度予算がついたり、動いていく部分があると思います。せっかく良い方針ができて実現されないという意味がないので、どういう段取りで用地買収などの情報を図面に落とししていくのか、どれくらいのスケジュール感なのか、どういう段階で地元や市民団体と話し合うのか。等についてどう考えていますか。</p>
事務局	<p>今のところ予算がつく、つかないもわからないのですが、希望としては来年度測量をかけて、用地がどの辺まで必要になるのか設計をしてみるところまでいければ良いと考えています。その過程で、我々はキタミソウについて知識が明るくないので、断面をどこまで切下げるか等についても相談には伺うと思います。</p>
深町委員	<p>来年度は実際の工事に入るというよりも、工事に入るためのいろんな検討になるという理解で良いですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
堂本委員	<p>来年度設計をするための予算ということでしたが、もう少しスケジュールを教えてもらいたいと思います。こういった河川などは場合によっては急に予算がついて、動き出して時間がないということがある。これだけ時間を掛けて検討委員会をやったので、この方針がある立ち位置としてあるということ、どういう形で引き継いでいくのか。役所の中で異動もあると思う。その際にきちんと引き継がれていないことも時々ある。事業がどう進行しているのか検証する、共有する場が必要だと思う。これまでは行政の方も含め1～2年かけて検討してきたことに共通認識を持ってきたが、事業主体である県土整備事務所の人が代わった時にスムーズに引き継がれない場合があるので、こういった検討</p>

	<p>委員会のような確認をする場というのを設けて頂きたいと思います。</p> <p>この計画を進めるには相当ハードルが高いと思います。それだけに実行していく仕組みとか、やりとりする場を設けて頂きたい。人が代われば思いなども変わる。それを見越した上でフォローする場というのを設けて頂きたいというのが希望です。</p>
永沼委員	<p>平成 27 年 11 月 29 日の日曜日に自治会の主催で、星川と馬見塚橋について意見を頂く馬見塚地区懇談会を行った。渡辺先生と深町先生にも出席して頂きました。深町先生の方から星川と馬見塚橋の昔と今ということでお話を、渡辺先生にこの星川環境検討委員会の経緯について話して頂きました。その後、馬見塚地区の住民の方から意見を頂きました。意見をまとめると、星川の原因風景は残してもらいたい。馬見塚橋は架け換えず保存してもらいたい。という意見が大勢を占めました。馬見塚橋を架け換えてもらいたいという意見はひとりもいませんでした。馬見塚地区住民の意見はそういうことなので、行田市も行田県土整備事務所も踏まえ、住民の意見に逆行するような施策は行わないで頂きたいと思います。配りました要望書に書いてある通り、行政の立場もあるとは思いますが、住民の意見を十分汲み取って頂き進めてほしいと思います。</p>
今村委員	<p>今後もこの検討会みたいな形で続けてほしいと思うのは、14 ページの一番下に「市民参加や住民主体の利活用・維持管理活動の検討」とあり、こういう時に必要だと思うからです。常に住民代表を加えておくことによって、県土整備事務所も相談しやすくなると思います。私たちも行田の河川について、県のお世話で川のまるごと再生をやってもらい、忍川関係の工事は3月末に終わることになっています。星川は唯一残された行田の自然、里川だと思います。行田には里山がないので、星川を里川にしなければ行田の自然、水と緑の原風景というのは存在しないと思っています。我々6団体でみどりのぎょうだネットワークという組織を運営しているが、そこでも一番重要視されるのは星川。今後、星川で子供を中心としたイベントを考えています。学校では対応できないものを、民間団体が子供たちに星川、里川のおもしろさ楽しさというのを啓発していきたいと考えています。そういうことから常に住民・民間と共に行政も足並みを揃えてやっていくということは大変重要なことだと思います。</p>
栗原委員	<p>我々地元からすると馬見塚橋というのは老朽化しているから対策を考えないといけないと思います。一部には橋を架け替えてきれいにした方が良くという意見もありました。しかしこの前の懇談会では昔を知っている人から、昔は川がきれいで水仙のような花が咲いていたという話がありました。地元で清掃</p>

	<p>活動をする中で、星川の価値というものに改めて気づき、そういう中で地元の協力者たちも増えてきました。馬見塚橋から下流を見ると堤防が高くなり以前と変わってしまったというイメージです。星川橋から下流を見ると、左岸は堤防が低いので検討されて改修されていると思います。自然の流れの中で中州も出てきていて。上流は全く手がつけられていない状況ですが、蛇行している景色、季節によって緑の違いなど、貴重な自然の状況がよくわかり、これは残していかなければならないと感じています。</p> <p>この検討委員会の中で話し合ってきていることだが、星川橋から境橋の特に左岸、熊谷に近い方は熊谷地区の住民の方が主流になるのではないのでしょうか。境橋までは行田だと思うが、我々は星川の改修については、自然を守るといことで境橋まで含めて意見交換もしたし、検討委員会も進めてきた。直接携わる関係者、地権者もいると思うので、そういう方に対してここでの論議を踏まえて、協力してもらおう。できれば熊谷市の住民にもこういった運動に参加してもらいたいと呼びかけることも必要だと思います。</p> <p>一度我々の清掃活動に参加されて「これは良いね」ということを話していました。意見交換なども、川は上流から下流まで流れてくるから、そういった運動に発展させていくのが環境には良いのではないか。我々では手の届かないところにも運動ができていくようお願いしたいと思います。</p>
堂本委員	<p>こういった方向性に対する情報発信はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>行田県土整備事務所のホームページでも検討委員会についてはお知らせしており、結果も公表しています。今後、こういった取り組みをやっていると中間報告については、こういった方向が良いのか検討したいと思います。</p>
堂本委員	<p>良い機会なので前のめりで情報発信していったほうが良いと思います。土地買収もいろんな手法を駆使しながら進めていかななくてはならない。埼玉県から川の再生とか施策が出ますが、このとおりいけばまっとうなプラン、実現すれば埼玉県で良い里川になると思う。そういう覚悟をもって県土整備事務所にしろ行田市にしろ、地元の市民団体が取り組むという方針を表に出してください。</p>
渡辺委員長	<p>河川整備の大きな方針については、みなさんの意見を受けてできています。今日出た意見は、如何に良い形で具体化していけるか。どういう方針でひとつひとつ実現させていくか。そこをしっかりと考えるのが大切。行政としての熱意を重ねて、何らかの形で具体化していくプロセスで、専門家からのアドバイス</p>

	<p>を実際に活かしながら、一つ一つ実現していく。その仕組みをできるだけしっかりしたものとしてつくっていくのが大事だという意見だと思います。先ほど永沼さんから紹介があったように、地域の懇談会では非常にみなさん関心を持っていて、今後河川整備を進めていくのに、現場ではいろんな背景もあるし、ケアもしていきたいとっていた。そういう声を活かしながら一つ一つ進めていくのが大事です。馬見塚自治会は星川とのつながりが深いし、密接な関わりを持っている人が多いので、意見交換会も前向きな意見がでる。そういう意識を他の自治会の人にも理解を深めてもらいたいと思います。清掃活動や観察会をすることから協力のネットワークをつくって、地域主体で進めていくことが今後河川整備に必要なと思います。</p> <p>一度現場に来てもらった西廣先生からは、生き物に対し多様な環境を創出するような工夫をしていくことが可能という話をしてもらった。実際どのようにしたら良いか、しっかり考える必要があります。地面の中に埋まっている種子をちゃんと利用し育てる。実際の生態系のあり方を考えると非常に効果的です。そういう面で研究者も協力していきたいと言ってくれているので、専門家の協力もうまく引き出したい。この委員会で関わった人をつなげていくことが大切で皆さんも協力をお願いしたい。</p> <p>河川整備については議論を終えて、次の議題、馬見塚橋の保全に移りたいと思います。</p> <p><b>2. 馬見塚橋の保全</b></p> <p><b>【事務局からの説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より「2. 馬見塚橋の保全」について説明があった。</li> </ul> <p><b>【委員からの意見等】</b></p> <p>馬見塚橋は星川の上流風景にとって大切な要素だということは、この委員会でも皆さんの意見は一致している考えだと思います。一方で課題は保全するとともに治水や安全をどれだけクリアできるか。クリアしながら馬見塚橋をかさ上げなどして保全していく案を模索していかなくてはならないということです。</p> <p>前回の委員会では、現在の橋を活かす形で補修をしていくという提案をして頂いて議論をしました。一方、行田市のほうからは架け替えの優先度が高いという説明を頂いたところまでがこれまでの経緯です。そういうことを踏まえた上で馬見塚橋について意見を頂きたいと思います。</p>
渡辺委員長	
島田委員	<p>近代土木遺産ということで、貴重な橋に指定された。世の中の動きというのは良いものであれば古いものであっても残すという方向にある。川でいうと近</p>

	<p>くの吹上の元荒川にある新佐賀橋が同じように近代土木遺産に選ばれている。そこには看板で説明がついており、吹上町としてその橋を含めて観光資源と位置付けている。新佐賀橋だけでなくいろいろな橋をパンフレットに載せて観光に使っている。この検討委員会には景観学の専門の先生がおられ、その先生が「ぜひ残してください」といっているのだからそういうことも含めてぜひ残してほしいというのがあります。それから永沼委員が言ったように、地元の懇談会では「ぜひそのまま残してください」ということで話がまとまっている。地元の方に加えまた我々のような環境保護を訴える団体も残してもらいたいという意見であり、現代の土木技術なら残せると思います。</p> <p>下流に新橋ができるので、22 ページに書かれているような課題は減ると思っています。例えば救急車やトラックの通行が制限されているとあるが、大きなトラックは新橋を通せば良い。馬見塚橋は生活道路みたいなものなので、小さい車だけにしたら良い。それだけ安心安全だと思います。大型車が通れるようになると交通量も多くなるので危ない。あと市に言いたいのは、市民憲章。「郷土を愛し、文化のまちをつくります」といっている。地元の人たちは郷土を愛している人たちですので、ぜひ星川の景観、自然を残してください。それから「自然を活かし、美しいまちをつくります」。これは星川の自然を守り、馬見塚橋を含めた景観を守る。この市民憲章は市の基本理念みたいなものですから、是非残してもらいたい。もし市民憲章や市民の意見を無視して、古くなり危険だから壊して新しいものをつくるとなったら行田市は恥ずかしいと思います。</p>
永沼委員	<p>吹上の橋は近代土木遺産に指定されていると表示がされているとあったが、本当に良いと思う。行田市も馬見塚橋が土木遺産に指定されているという表示をすると良いと思ったのですが、検討して頂きたい。ぜひお願いできればと思います。</p>
	<p>それから馬見塚の懇談会で出た話ですが、キタミソウ。「ここはキタミソウの生育地です」という表示が行田バイパスのところにもない。熊谷羽生線、バイパスから北に入ったところ。星川のすぐ近くの道路にも、キタミソウの生育地という表示はない。バイパス等を通る人たち、熊谷羽生線を通る人たちにも、どこにキタミソウの生育地があるのかということがわかるような表示がない。表示をして頂けるとありがたい。表示についても検討してもらいたいと思います。</p>
深町委員	<p>安全性について。自然災害は100%、いくらお金を掛けてガードをしっかりしたとしても想定外ということがあがる。確率は減らすことはできても完全に防</p>



	<p>ぐことはできない。そういう時に何が大事かという、地域の人たちの日ごろからの愛着や関わりというものだと思います。そういったものがあれば非常事態が起きた時にお互いに助けあおうとか、危ない時はいろんな人たちが連絡をして危機を防ぐとか、そういうことにつながっていくと思います。橋や川がだいぶ整備されてきましたが、ハードに頼ってより安全なものをつくれば良いというだけでは、そのことによって失うものもある。これだけ地元の人たちや関係者が大事にしたいと言っているのにそれを無視してハードのことだけ、予算のことだけで押し通してしまったら、地域のコミュニティや団体と、県や市との心がかけ離れていくと思います。ここでの議論をいろんなプラスに繋げていくという発想をこれからは取り入れてもらいたいと思っています。ここでの議論は生活や市民活動に根ざした中で責任を持った上での話だったと思うので、大事にしてほしいと思っています。</p>
渡辺委員長	<p>安全を確保するためにハードでカバーするだけでなく、ソフトでカバーするという部分もある。ソフトは実際、行政だけでは実現できない。地域の人たちがソフトでカバーするということも、地域の人たちの理解が必要で、ソフト面で重要なことではないかと思います。地域の人たちのソフト面での協力を引き出しながら最善の策を探していくというのが大事だと思います。</p>
江袋委員	<p>新しい橋ができて、どのくらいの交通量が馬見塚橋から新しい橋に行くのでしょうか。馬見塚橋を通る交通量がどのくらい変わるのか。そこらへんを考えてほしいと思います。半分、もしくは3分の1になるかもしれないと地元の人には思っています。今は通り抜けが多く群馬ナンバーも通っていますが、新橋整備後は地元の人しか通らないような。交通量を調べてもらって、それに対する意見を出してもらえたらと思います。</p>
渡辺委員長	<p>新橋の竣工はいつですか。</p>
永沼委員	<p>北進道路の建設委員会の委員になっています。北進道路は、平成28年度中には完成します。</p>
渡辺委員長	<p>行田市のほうでは北進大橋ができて、交通量の流れが変わっていくことで馬見塚橋の利用がどのように変化するかということについて、予測なり想定をしていますか。</p>
行田市	<p>この委員会が始まってから意見をさせてもらっているのは主に馬見塚橋の</p>

	<p>安全面についてです。交通量に関しては行田市では調査していません。しかし、北進大橋が開通することで、大型車や一般の通過交通車両は北進大橋の方に行くようになると思います。一方、生活している方にとっては近道、抜け道としてこちらを優先していると思うので、若干交通量は減るとは思いますが、現状とそれほど変わらないのではないかと思います。</p> <p>馬見塚橋については去年から委員会を立ち上げて景観、原風景保全等に関して議論を頂きました。行田市としても対策ができないかという検討をしておりますが、現状ではやはり河川の断面も阻害していますし、大雨が来たときには流木等で影響が出て橋が壊れる可能性があります。せっかく貴重な土木遺産なので、このデザインなりこの橋の一部でも残せば良いと思っています。しかし橋そのものを残すということに對しましては、前回もお話ししましたように、いつ事故が起こるかわかりませんので、道路管理者としては今のところは架け替えをしたいという意見であります。その中でこの縞模様、波型のデザイン等を新しい橋にも取り入れたり、何かしら一部でも保存できれば、また看板などで橋の説明文等を入れて表示できれば良いと思っており、今後検討していきたいと思っています。ボックス等で検討してもやはり橋を一度かさ上げしなくてはいけません。その時に強度が保てず壊れてしまい保存できない状態も考えられますので、そちらも十分考慮して今後進めていきたいと考えています。先ほどの説明文、表示板につきましては今後検討していきたいと思えます。</p>
今村委員	<p>行田市は橋を架け替える方向とのことですが、その費用は市の予算で賄えるのですか。</p>
行田市	<p>橋に関しましては河川管理者と協定を結び負担割合を決め、半々くらいになるかと思えます。</p>
今村委員	<p>道路をつくる時には当然予想される交通量を考えて相応の道路をつくり橋を架ける。それなのに交通量について調べていないというのはとんでもない話です。危険だというのはわかります。先生方にもお願いしたいのですが、最近、何かあると責任転嫁で設置者の責任が問われる。特に深町先生は景観の専門家なので「景観を残すためにはそういう危険もありますよ」等、住民たちが注意しなくてはいけないことがあるとしたらぜひ啓発してほしい。</p> <p>秩父鉄道の踏み切りで自転車が轢かれました。その踏切は封鎖され、住民は不便をしています。ところが熊谷近くの持田の方は、踏み切りも無くいつでも線路の中に入れる状態になっている。責任を誰かに転嫁する風潮というのは日本全体の問題だと思うのですが、変えていかなくてはならない。自分たちが</p>

	<p>大事にしているものを残すためには、自分たちもそれに対し責任があり、責任を負うという流れにしていかないと、今回のように行政も何かあった時に責任を問われてしまうので架け替えという話になる。住民がこれだけ残してほしいといっているのにそういう発想になる。そういう発想をしている限り、日本の文化はどんどん廃れていきます。今世界から日本の文化は見直されており、日本人も早く目覚めるべきです。自然を制御することはできず、震災も結局は想定外となります。自然には勝てない。我々が謙虚になって、自分たちで助け合って、物事を解決していくように啓発してもらいたいと思います。</p>
島田委員	<p>そのとおりだと思います。北進道路のような広い道路、大きな橋をつくるのにそれなりの理由があるからつくるのですよね。新橋ができた後、現在の馬見塚橋や星川橋の交通量がどうなるか。交通量の調査ができていない、やっていないというのはまずいと思います。継続してどういう動きをしたかということのを絶えずモニタリング調査をしないといけない。おかしいと思います。</p>
栗原委員	<p>馬見塚橋については県の事情で進められており、当初は工事をする県が調査をしたのですが、費用は行田市も負担する。市民の立場としては、橋の架け替えにしても行田市が負担するということですから、県と協力して事業を進める場合には地元の要望に沿って財政的にも考えてもらいたい。市民の立場に立って有利に展開するということが行田市の立場であってしかるべきではないかと思ひます。</p> <p>行田市には古墳時代からの歴史がいっぱいある中で、トータルで人を呼べるような形になっていない。足袋蔵を残すと国の事業も入っているが、批判もある。しかし、それが将来的に市の資産を残すという形で評価できる面もある。</p> <p>今回のケースは個人のものでないし行田市全体として恩恵が有り、先生方も言われたように高い評価を得られるのではないか。そういう立場に行田市政は立ってほしいと思ひます。</p>
深町委員	<p>今までは県の枠組みで川のこと橋のことも検討してきました。今後は地域の人たちのまちづくりや観光のためとか、環境など地域防災も含めて行田市のほうで馬見塚橋のことだけでなく、星川の全体をどうするかについて検討すべきです。いろいろ大事なものが他にもあると思われ、それらをどうするかという議論をする場が必要です。交通量や屋敷林なども含めて、全体を研究してもらって、行田市が主になってこういった場をつくり予算等も検討する。地域の人たちが参加して議論をする場をつくるというような形で次の段階を展開してもらいたいと思ひます。</p>

	<p>日本に誇れるような財産を行田市が持っているのだから、これだけ熱心な市民活動の住民の方たちが関わってやるということはそうはないと思うので、もっともっと活かしてもらいたいと思います。この委員会も3月で終わるので、持ち帰って検討して頂きたいと思います。</p>
堂本委員	<p>23 ページにこれまでの委員会の議論ということで「馬見塚橋が持つ価値を第一に、その価値を極力残す」という方向になっている。もちろん前回の委員会でも行田市のほうでは架け替えということをおっしゃっていたが、少なくともこの委員会では保全していくということになっているのに、先ほどの話でも架け替えを前提と言われてしまう。そうなるとこの委員会は終われない。ここで終わったら馬見塚橋が無くなるのではないかと受け取れます。今一度この方向性を踏まえた調査や検討を行田市のほうでやってからにしてほしい。</p>
行田市	<p>市の意見として架け替えの方向で検討ということでお話させて頂きましたが、最終的には24 ページにもありますように、住民合意が大切だと考えております。残すのか残さないかという判断は住民と合意形成を図る必要があると思っています。ご意見を頂く仕組みづくりをこれから取り組んでいく方向でいきます。</p>
深町委員	<p>いろんな委員会に参加してきました。今回は馬見塚橋について検討してきたが、最後の最後で検討の余地もないまま行田市としてそのような発言をすると、この委員会そのものの価値を全て否定してしまうように受け取れます。すごく大事なことなのに。もしそうならこの委員会をやる必要はなかった。住民の意見を聞くとか専門家の意見を聞くとかせずに、行田市の意向で全部やってしまえば良いのではないのでしょうか。なんのために皆さんが集まって、いろいろ難しい条件がある中で歩み寄ってやってきたのか。今日もいろいろな意見が出たが、これでおしまいにしてそれで良いと思っているのでしょうか。今後意見を聞きますといっても、自分たちの決めた結論の中でちょっとした調整程度。それは意見を聞くとはいわない。いろんな条件、データを踏まえて、正当な手続きの中で議論した結果というのを出した上で実行しなかったら、こういう委員会をやる根本が成り立たないと思います。お金を使ってこういった委員会を開くこと自体が失礼な話だと思います。少なくとも、市の方針としてあるのはわかるが、行田市が主体となって、今日、各委員から出された意見をうまく使って、よりよい方向性に持って行ってもらいたいと思います。</p>
行田市	<p>行田市も去年からこの委員会に参加させて頂いていますが、河川改修で今ま</p>

	<p>ではこういった委員会はなかったということで、他の橋梁などは一般的に壊して架け替えている状況です。</p> <p>今回、星川の委員会で行田市としても委員会の意見を尊重してできるだけ何かを残せないかといういろいろ検討してきました。そのような流れの中で、まず合意形成を図るという方向で話を進めていくよう検討していきます。決して意見を尊重しないというわけではないのでご理解頂きたいと思います。</p>
堂本委員	<p>保全方法のイメージはどこが主体となって構造を考えたのですか。</p>
事務局	<p>イメージ図は、まず、河川管理者として河川断面が取れるかという観点のみを検討をしました。これが強度的に持つのかというのは、今後道路管理者の行田市さんの検討になります。</p>
堂本委員	<p>それは検討してもらわないと、そういったことをきちとした上で結論を出してもらいたい。このイメージは何だったのとなる。</p>
橋本委員	<p>過去は素晴らしい橋を簡単に壊してきました。もったいなかったと思いますが、それは時代でしかたなかった。近代遺産で調べると、行田は橋を中心に比較的多いほうだと思います。今回この会議は良いきっかけだと思いますので、今後の改修計画があるかわからないが、石田堤の堀切橋や星川の大和橋など、優先順位をつけるにしても、いくつかの近代遺産をどうやって残せるか。考え直す良いきっかけだと思いますので、ぜひともそういう方向にいてほしい。馬見塚橋で壊して良いとあっさり認めてしまうと、また逆戻りしてしまう懸念がある。市内でも市民が所有している洋館など残せない状態になってきている。良いものがどんどん消えていくので、馬見塚橋をきっかけにそういったものが残る体制、市民の意見をうまく取り入れるような、活かせるような状況になっていけば良いと思います。あと、馬見塚の自治会がこれだけ保全に熱心、自分たちの生活が多少不便になっても残してほしいという方向にいている。これが市長に伝わっているのか疑問。市長が今の状況を知ったら、技術的な問題でクリアできるならクリアしろというのではないかと思います。市長に地元の意思がちゃんと伝わっているのでしょうか。</p>
行田市	<p>馬見塚橋の検討委員会のことは報告しています。一番大事なのは安全性と市長からは言われています。安全性と地元の住民、利用者の意見を汲んだ検討をして方針を決めてほしいとのこと。</p>

今村委員	<p>地元の人が、自治会でも会合を開いて、ぜひ残してほしいと。残すと皆さん不便になりますということを知っての意見だと思います。市がそういったところに入ってきて、安全上こういうことがある。不安定ということもいわなくてはいけないと思います。行政も一所懸命考えてくれているというのはわかっているが、行政内のセクションで分かれていてトータルで考えられていない。トータルで物事を見てもらいたい。自然環境から歴史遺産いろいろなことを見た上で、こうしたいというところが不足していると思います。市長にも担当部長にも申し上げているのですが。</p>
栗原委員	<p>馬見塚橋を架け替えてありきたりの橋になった場合、あそこから眺める風景に馴染まないと思います。そこにキタミソウがあっても星川の風景は良いなあと感じるかと思うと感じないのではないかと思います。あの馬見塚橋があって星川があってキタミソウがあるという3つの要素があって、はじめて成り立つ原風景だと思います。</p> <p>それから橋の交通量の関係では、この地域に来るには馬見塚橋を通るということは多々ありますが、バイパスに行く、南に行くという場合は現状では星川橋を使っています。北進大橋ができた場合、馬見塚橋から北へ伸びてぶつかるところがT字路になっている。そこから北に行くと県道362号になる。現状ではそういう形で北進道路ができたとしてもそこに行かなくてはならないのだが、止まっているT字路を北進道路にぶついたらどうか。当時はそういう計画がありました。今、利根川に新しい橋をとという運動もありますが、利根大堰の交差点もすごくて、渡った先の県道も混む。総合的に考えても、北進大橋ができればそちらに流れる車が相当あるのではないかと思う。私が提起した時に当時の建設部長ができてみないとわからないとのことでした。その後、交通量調査をして必要があればまっすぐにつなげて良いという話をした。道路網整備もこれを機会に、これだけ地元の声が強いから、そういうことを考慮した上で先々のことを考え総合的に取り組む必要があると思います。</p>
渡辺委員長	<p>市の方針を聞くと、現時点ではこの委員会をまとめられない。私もこの橋に関わってきて、馬見塚の懇談会の前に道端で会った80代の女性にお話を聞いた。いろんな記憶や思い出が馬見塚橋とつながっていて、星川ともつながっている。その方は、馬見塚橋がなくなったら星川とのつながりも断ち切られてしまうとおっしゃっていた。原風景を保全していこうという中で、地元が一番身近なところで星川と向き合ってきた人たちの意見を基に最善の案を考えていくことが大事なのではないかと思いました。</p> <p>栗原さんからもありましたが、キタミソウと馬見塚橋と星川の原風景、どれ</p>

ひとつ欠けてもだめなんだということを地元の懇親会の中でみなさん一致して言っていました。古い橋だけでもなくなったら取り戻すことはできない。新しい橋ができて、今までの馬見塚橋とは違う。キタミソウや原風景を大事にしても橋を失ってしまったら、自分たちにとっての星川は壊れてしまうという思いが共通しています。

馬見塚自治会の人たちは、ある意味一番星川、馬見塚橋の上流下流と濃密に関わってきた非常に関心が高い人たちが集まっている。安全性のことを承知の上で、今の橋を何とか保存できないかと望むし、自分たちもそれに伴うリスクや不便さは受け入れるという話を皆さんしていた。行政としては現場に最も近い地元の人たちの思いを受け止めることが必要なのではないか。行政としても守らなくてはいけない部分や制約なりあると思いますが、一番大事にしなくてはいけないのは、現場近くで暮らしている人たちの思いや要求だと思います。

皆さんにお配りしたグリーンレターという私が編集している雑誌なのですが、編集後記で星川のことを紹介しています。馬見塚橋の写真と小学生が描いた絵も載せています。橋の専門家の久保田先生が二本の橋脚と高欄の山が一致しているのが大事なのだということをおっしゃっていたのを聞きましたが、そういう特徴や意匠というのをちゃんと捉えて描いている。そういう橋を残していけるように考えなくてはいけないと思いながら編集後記を書きました。

委員会ではこの馬見塚橋を何とか保全していくために、原風景を残すことと治水の課題を両立できるように模索してきました。老朽化でひび割れがしているので構造上安全が確保できないという部分があるのも確かですが、橋の専門家からは補強・補修することで技術的には保全を追求できるのではないかという話も頂いた。幅が狭く、高欄が低いという話もあるが、イギリスでは橋が重要でどこも古い橋は前後の車道より狭いがそこを通る人は気をつけて交互に通行してくださいという標識がある。譲り合って地域の人が利用しているという場面に出くわす。地域の人たちの思いがあれば保存できるのではないかと思う。四万十川も紹介しているが、高欄がない橋もある。地域の人たちも危険を受け止めつつ残そうと、この橋を継承していこうと。そういう例もあるので、いろんな課題が出されたが、解決できない課題はないと思っています。今までの議論を無にしないで、さらに技術的な部分での検討も続けてもらいたい。

もうひとつ、行政だけに責任を負わせてしまうのでは行政は動いてくれないと思うので、安全の面で地域が受け止めていく、馬見塚の地域の中でも合意を深めていく。馬見塚の人たちに気持ちを強く示してもらうことで、周辺の地域のほうでも理解、協力していこうという意識を深めていくということが必要だと思います。

新しい北進大橋ができて馬見塚橋の利用がどう変わるかも見ながら、馬見塚

	<p>橋を残す可能性をさらに追求していくというのがこの委員会の意見だったと思います。それを追及していった先にどういう形に辿り着けるか、まだ見えないうところがありますが、馬見塚橋を残して行ってほしいと思います。</p> <p>この委員会は今日で締めなのですが、何らかの形で今後の動きをこのメンバーに報告をしてもらえる機会が欲しいと思います。予算の関係で難しいなら自費で集まることもやぶさかではないので、関心を持ち続けていきたいと思います。深町先生や地元の方の意見を取り入れつつ、検討して行ってほしいと思います。</p>
橋本委員	<p>まだわれわれの活動は存続していきます。ここで議論されたことがどう事業に反映されていくか、地元の方を中心にやっていくことになると思いますので、命ある限り見守っていききたいと思います。</p>
渡辺委員長	<p>次の議題に移りたいと思います。</p> <p>3. キタミソウのモニタリング調査</p> <p>【事務局からの説明】</p> <p>・事務局より「3. キタミソウのモニタリング調査」について説明があった。</p>
栗原委員	<p>【委員からの意見】</p> <p>キタミソウを保全していくにあたり、地域の方も含めて交流が図れるようにしていきたい。小中学生も親御さんと共に参加できるようにしたい。もう少し興味を持ってもらえるように、どういった工夫ができるか考えていきたいと思っています。</p>
橋本委員	<p>退出された今村さんが市のほうと行っている森づくりの委員会があり、今後全市から小学生を集め年に何回かの森の手入れと自然観察会を行う計画があります。その中で星川の観察会にも参加・協力していく活動をプログラムに入れようという動きも出ています。</p> <p>4. 今後の流れ</p> <p>【事務局からの説明】</p> <p>・事務局より「4. 今後の流れ」について説明があった。</p>



橋本委員	<p>【委員からの意見】</p> <p>このとおりいけば素晴らしいものができると思う。住民が行田県土整備事務所と協力しながら見守っていくということですが、問題は境橋から上流の部分。行田県土整備事務所から熊谷に変わってしまう。そちらの事業が始まった時に、せっかく今まで進めてきた考え方が途切れてしまったら意味がないと思う。小宮の堰から遊水池のあたりはミクリの群生地になっているので、そういったものを守ることも考えてもらいたい。その辺の住民の方も巻き込む方向に持っていかないとだめだと思います。</p> <p>行田県土整備事務所は私たちの意見を聞いてくれる姿勢を持って頂いたが、上流で全く違う考え方で整備をされてしまうと困る。引継ぎというか、私たちも含めた住民の意見が反映されるような形で進めて頂く方向になって欲しいと思います。県の方で引継ぎという形にしてくれると一番良いのですが、住民は住民で熊谷県土整備事務所や知事宛に、熊谷の方も原風景を引き続き保存していくという考え方で整備してもらいたいという要望書を出したりしていかなくてはいけないと思います。</p> <p>我々は行田をエリアとした団体なので熊谷のいろんな方に相談しながら、住民団体の方等と協同して取り組んでいきたいと思っています。そのあたりは最初から熊谷県土整備事務所がそういう姿勢を持っているのに我々が先走って動いてしまうのもだめなので、行田県土整備事務所のほうから声をかけてもらった方がスムーズに行くと思うのでお願いしたいと思っています。</p>
事務局	<p>このような意見があるということはわかりましたので、そういった要望があるということを熊谷県土整備事務所に伝えたいと思います。</p>
渡辺委員長	<p>これまでの委員会の議論については、熊谷県土整備事務所側にも尊重してもらえるように県の河川砂防課としても伝えてもらいたいと思います。</p>
堂本委員	<p>今日まで検討されたことが、どういう状態になっているのか。年1回、協議する場を設けてもらいたい。そうでないと終われないというのが正直な気持ちです。</p>
深町委員	<p>来年度はどうなるかわからないと思うが、必ず年に1回はこのメンバーに集まれる日をつくって進捗状況を説明してもらいたい。県土整備事務所の人も異動など変わることもあると思うので、きちんと引き継いでもらいたいと思います。</p>

渡辺委員長	<p>私からもお願いします。説明を受けたり、現場を見に行ったり、そういう機会をつくってもらいたいと思います。そしてまた意見を出し合って最善の選択ができれば良いと思います。</p> <p>実際に現場でどう実現していくか、引き続き意見や注文などを聞くことも大事なことだと思います。メンバーは協力しますので、そういう場をつくってもらえるようお願いします。</p>
事務局	<p>今までのような正式な検討会という名前ではなくなるとは思いますが、事業の確認の場としてそういった場をつくっていくよう検討したいと思います。</p> <p>協力をよろしくお願ひしたいと思います。</p>
深町委員	<p>この委員会が始まった当初は県のみどり自然課の方がきて、キタミソウとか貴重種の保全等をどのように繋げていくかなど、意見をされていたと記憶しています。今日も欠席されているので、ここでの議論が県レベルの施策や、他の地域でがんばっている市民活動に是非繋げていてもらいたい。県と連携した保全活動なども、今後集まる機会には聞かせて頂きたいと思います。</p>
事務局	<p>みどり自然課には改めて伝えたいと思います。</p>
渡辺委員長	<p>みどり自然課にはわたしからも伝えたいと思います。</p>
橋本委員	<p>熊谷県土整備事務所側のことにも関係するのですが、遊水池の近くに温泉施設ができて、星川に排水を流すのではないかという話があります。今の排水基準でそんなにひどい水を流すことはないと思うが、せっかく良い形で進んできても、行田でがんばっているのに熊谷で排水が流されてしまっは。という細かい心配もあります。境橋より上流でのこともちゃんとチェックしたいという気持ちが有ります。</p>
深町委員	<p>こちらでいくらがんばっても、上流にそのような施設ができてしまったら元も子もない。治水の安全性ということもあるし、上流側がどうあるべきかということは、常に情報交換ができて良いのではないかと思います。今の時点での熊谷側の河川整備方針や考え方はわかりますか。</p>
事務局	<p>基本、河川整備は下流から進めていくので現時点で熊谷側に辿り着いていない状況です。現況のままの河川が残っている。境橋まである程度整備が進んでから設計工事着手ということになります。</p>

深町委員	行政レベルでも地域レベルでもほとんど関心を持っていないということですか。
事務局	関心がないわけではないです。行田県土整備事務所でこういった検討委員会をやっているというのは知っています。
栗原委員	川の100選に行田市では唯一星川が入った。上流を辿ると熊谷の富士見中学校のところまで行け、その手前に上星川という表示がある。この星川の上流ということですが、同じ川なのでそこまで含めて整備していくというのが県の方針だと思います。管轄は違うと思いますが、県の事業という中でひとつの川という観点でやってほしいと、行田県土整備事務所から熊谷側に引き継いでもらいたいと思います。
渡辺委員長	<p>長時間にわたりありがとうございました。2年前の9月が初回。その前から、星川の原風景について配慮して欲しいということで調べ始めました。この委員会をつくって、地域の人が大事にしている原風景を守りながら治水や安全対策と両立させる策を探ってきました。事業化に向けて、次にどう進めていくか。行政としては簡単ではない点もあると思います。委員会の要求を取り入れた提案や課題へも一所懸命対応して頂いた。委員の方も熱心に参加してもらった。今後ここで議論したことが活かされて無駄にならないよう、現場でひとつひとつより良い形で実現していくことが重要なことだと思います。引き続き大切に真剣に取り組んで欲しいと思います。</p> <p>私たち委員も引き続き協力を惜しまないという気持ちです。今までの関係をぜひ活かして欲しいと思います。今日では終われないという意見もありましたし、こういう形でみんなが集まれる場は必要だと思います。より良い形で実現してもらい、今回集まったメンバーがこれからも力を合わせ進めてほしいと願います。今日の委員会を終わりにしたいと思います。</p> <p>皆さん、ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>4 閉会</p> <p>長時間に渡り、ご議論ご検討ありがとうございました。以上を持ちまして第5回星川環境保全検討委員会を閉会させていただきます。</p> <p>皆さま、お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>